

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372400261		
法人名	株式会社 邑久幸ホーム		
事業所名	グループホーム 邑久幸ホーム(月見草)		
所在地	岡山県瀬戸内市邑久町尾張94-1		
自己評価作成日	令和1年11月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=3372400261-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和2年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・運営理念である「入居者が主人公」を目指して、入居者の方が意志や感情をありのままに表現できる安心感のある雰囲気作りと笑顔で接することを心がけています。 ・入居者の方が、その人らしく持てる力を発揮しながら、生活していただけるように寄り添う介護を行っています。 ・ホームの中においても、季節の移り変わりを感じることができるよう、菜園で季節の野菜や花を育てています。また、新鮮な野菜や季節の花を頂くことも多く、日々の生活の中で食事に提供したり、花を飾ったりしています。 ・外出支援は積極的に取り組み、冬でも散歩や買い物が行えるよう、日々の健康管理に気を配っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「入居者が主人公」の理念を実践する為、会議にて具体的な意味を話し合い、入居者一人ひとりと向き合って要望を捉え、日々の生活に反映させている。入居者のケアにおいて重要な点(身体拘束、パワーハラスメントなど)を議題に挙げ、起こりうる場面と照らし合わせながらグレーゾーンの部分や該当するか否かを協議し、ケアに活かしている。多くのボランティアの受け入れをして日々の生活に潤いを持たせ、楽しみのある生活支援をしている。入居者は行き慣れた近隣のスーパーマーケットやドラッグストアへ買い物に出かけている。事業所の菜園に行き、経験を活かした野菜の植え付けや収穫などを通して満足した生活を得ている。管理者は、自立支援の重視という観点から管理面を充実させ、やりたいことに取り組み穏やかな生活獲得に励んで欲しいとの思いで日々支援をしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念をフロー、スタッフルームに提示している。又、「入居者が主人公」の意味を理解し実践できるよう職員会議等を活用し、共有している。	定期的に理念の理解を深めるため、職員会議にて話し合い、実践につながるよう努めている。日常的に入居者と向き合い、個々の要望・意見を聞いて共有し、ケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏休みには中高生のボランティア活動を積極的に受け入れ交流を図っています。地域特有の行事やお祭りへの参加などを通し地域の人々と交流をもつようにしています。	ハーモニカ・塗り絵・演劇・折り紙など多くのボランティアを受け入れている。中・高校生も訪れてくれる。また地域の催し物に参加し、交流を楽しんでいる。産地直売所にも買い物に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の認知症の相談、介護保険に関する質問等を随時受けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しホームでの取り組み、活動報告、入居状態等を報告し、質問、要望、助言をいただいています。ご意見は次課題とし取り組めるよう検討している。	定期的に運営推進会議を開催し、事業所の取り組みや検討会(ハラスメント対策・身体拘束適正化)等についての結果、消防訓練、季節行事活動、入居者の様子などを報告し、意見をもらっている。	運営推進会議に行政の参加を得て、事業所の取り組みや実情報告を伝え、サービスの向上につながることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただけるよう連絡を取り、入居者の日常様子を報告できるよう努めている。又、制度についてや地域との連絡についての必要な助言もいただけるよう努めている。	市の依頼に協力し、関係構築に努めている。管理者は市の担当者に、入院中の利用者の区分変更認定に関する制度などを相談している。運営推進会議の参加があり、取り組みについての報告をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のための対策を検討する委員会を2か月に1回開催するとともに、その結果について、全職員に周知徹底し、指針も整備している。職員に対し身体拘束等適正化のための研修が行えるよう取り組んでいる。	身体拘束適正化のための対策の検討会を実施し、事業所内の事例と照らし合わせ、該当していないかを協議し、職員にフィードバックをしている。入居者は行動の制限もなく、穏やかに生活できている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議を利用し、グレーゾーンの言葉集めを行った。その言葉を使う場面ではどのような対応が良いか、職員会議で考えることで共通理解として深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部研修で権利擁護について学び、職員と知識の共有に努めている。又、制度の活用が必要なケースが発生した場合には、支援していきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約に関しては、担当者がご本人、ご家族と面談し、書面と口頭で説明しています。また法改正等があれば、ご家族に書面にて説明をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方には、日常生活等を月に1回手紙でお知らせし、面会に来られた際はスタッフから積極的に話し掛けを行い相談しやすい雰囲気作りに努めています。	入居契約時に意見を聞く機会を設けている。家族に夏祭りなどの参加を促し、活動の様子を見てもらい理解を図っている。運営推進会議にも参加があり、意見を聞く機会となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の申し送り、職員会議にて職員の意見を傾聴し反映している。代表者は管理者と管理者会議を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	日々の申し送り、各種会議にて提案された意見を勘案し、運営に反映させている。週1回のミーティングにて意見を出し合い、運営の見直しにつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、資格が給料に反映する仕組みになっている。随時、勤務条件等についての相談を受け付けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順次、実務者研修へ参加する機会を設けていると同時に、個々に必要なスキルが身につけられるよう、又、自発性を尊重し学びたい分野の研修に参加できる機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などに参加することで、同業者や他職種の人と交流する機会があり、その時の意見交換等を日頃の業務の参考にしている。又、瀬戸内市で開催されるケアカフェへの参加も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、ご本人の現状や気持ちに耳を傾け、入居時にも安心できる環境づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、ご家族の思いや不安、困りごと、要望等に耳を傾けながら、ご家族の方も安心できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接でのご本人・ご家族の話や利用サービス中の職員・担当ケアマネから情報を聞くことで、必要としている支援を検討するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意なことや今までされてきたことを生活の中に取り入れ活躍できるよう努めています。職員も共に考え、笑い、共同生活を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご家族やご本人が望まれていること等に耳を傾けています。ご本人とご家族とが心地よく過ごせるよう、面会場所も自室だけではなく、リビングも開放し、お好きな場所で過ごしてもらえよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所での初詣やお花見、ご家族との外出などの機会に行きつけの美容院など、人との関係が途切れないように努めています。	家族と一緒に外食・外出を楽しみ、正月には帰省できるよう支援している。長船で行われる菊花展や西大寺観音院の桜の花見を楽しんでいる。余慶寺に初詣に出かけ、なじみの行事に関われるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握したうえでの席決めや、スタッフが調整役となり、孤立することなく入居者同士の良い関係が保たれるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所や病院へ移られた際に混乱することのないように必要な情報提供等を行い、入居者本意の支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向はできる限り汲み取るようにしています。また困難な方には、ご家族との相談や生活歴を参考にご本人にとって最善の方法や関わりができるよう努めています。	本人に希望を聞いたり、日々の生活の中で関わることにより、思いをくみ取っている。意思疎通が難しい利用者の場合は、生活歴や家族の意向を踏まえて要望をとらえている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、馴染みの関係の方など多方面からこれまでの話を聞いたり、また日々の関わりの中でさらに新たな情報を得るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時の心身状態を考慮し関わりを持ち、申し送りや経過記録を活用し、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または状態に変化があった時など必要時には、カンファレンスを開き課題とケアのあり方についてを話し合っています。ご家族とは面会時に相談したり、希望を聞いて介護計画に反映するようにしています。	3か月に1回モニタリングを行い、目標の進捗状況を確認している。家族に要望を尋ね、介護計画に反映させている。身体拘束やパワーハラスメントなどの事例を用い、ケアのあり方や適切性を話し合い、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子を記入してスタッフ間で情報が共有できるように申し送りをしています。週1回の職員会議と必要時にはカンファレンスを行いケアの見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の暮らしの中で散歩や買い物、ドライブに出かけるなど一人ひとりのニーズに柔軟に対応できるように努めています。又、訪問看護師、訪問歯科医、訪問リハビリなど多職種の方が訪問し支援の多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの方に来て頂き少人数での対応も行っています。又、市の広報や訪問者、スタッフからの情報も活用し、地域行事にも参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の方それぞれのかかりつけ医による定期的な往診を受けています。また協力医療機関など複数の医療機関とも関係を密に連携をしています。	かかりつけ医が往診にきてくれる。訪問リハビリの支援にも取り組んでいる。看護職員によるバイタルチェックにて健康管理をしている。歯科医による口腔ケア施行にて、嚥下チェックをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の体調の様子は日々記録に残し、看護職員に伝え相談しています。又、変化があれば24時間オンコール体制で報告や相談ができ適切な医療関係に繋がるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へは必要な情報提供を行っています。面会時には、医療関係者と経過を追っての情報交換や相談を行い、退院時、円滑にホームでの生活に戻れるよう体制整備を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を文書で提示し、口頭にて説明し同意を得ようとしている。状態の変化に応じて、本人、家族、医療関係者等と、その都度話し合いを行っています。	入居時に重度化についての事業所での対応を説明している。継続的な医療行為が必要になったり、口から食事が摂取できなくなったりした場合には、利用者の事を第一に考えて、他施設への転居を頼んでいる。看取りに伴う終末期の支援はしていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、ミーティングでは、急変時や事故発生時の対応についてを繰り返し話し合いを行っています。また緊急時に適切な対応ができるようマニュアルを作成しユニットに配置しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練や消火訓練を行っています。入居者の方も参加することで、より実践的な避難訓練を行っています。非常食を実際に食べることで、どのような物が良いか検討することができた。	火災想定避難訓練を消防計画に基づき実施している。職員会議で振り返り、その反省点を次回へ活かしている。カップラーメン・カロリーメイト・野菜ジュース等を試食し、非常食として最適な物を検討することができた。停電に備え自家発電を設備している。	ハザードマップにより吉井川反乱時の水害のリスクが想定されている。そのリスクに備えるため、詳細な避難マニュアル作成を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの言葉選びを、内部研修にて定期的に行っています。又、運営推進会議にて意見をいただき、運営理念に基づいた、人としての尊厳と人権を守る対応ができるよう志しています。	言葉かけに注意して排泄の確認、管理に尊厳が守れるよう配慮している。入浴時、他の入居者が間違えて入ってこないよう工夫し、プライバシーの確保をしている。理念に基づき自己決定の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい方にも2択で選んでいたたり、生活歴やその時の心身状態を考慮し、思いの表出がしやすい環境づくり、言葉選びに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出等の希望が入居者の方からあれば、出来る限り、すぐに対応しています。ホームの中でも入居者の方がしたい事は、なるべく尊重して対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日、その時に合った身だしなみができるよう関わり、必要な方にはセッティングをしています。また定期的に理容、美容の業者の方に訪問してもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	意思表示の困難な方にも、畑の野菜などを利用し、食材に触れることや視覚に訴えることで、季節を感じていただき、食への楽しみがもてるよう支援しています。準備や調理、盛り付け、片付けなども役割を持ち行っています。	おやつにホットケーキ作りをしたり、夏祭り時にはたこ焼きをしたりして楽しんでいる。時にはいつもと違う雰囲気を楽しむよう、外食支援をしている。自家栽培の大根やジャガイモなどを食材に使い、旬の野菜は入居者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個々で把握し記録に残しています。食事量、水分量の少ない方には、本人の嗜好に合わせた食事や飲み物を摂取してもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方へは声かけ、見守りをしています。また援助が必要な方へは、スタッフがお手伝いさせていただいています。又、訪問歯科来所時には相談できる環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズム把握に努め、本人の状況・状態に応じたトイレ誘導を行っています。	トイレには「お手洗い」と大きく表示して自立できるよう支援している。適度の運動を取り入れたり、水分摂取に注意して1日1500mlを目指し、脱水に伴う認知機能低下予防・便秘予防などの体調管理を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を介護日誌等、記録に残しています。スムーズな排便が行えるよう、お通じの状態に応じて、飲み物やおやつ選びを行い、適度な運動も行っています。また便秘がひどい場合は、主治医に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の方の好きな時間に入浴できるように、入浴の時間帯は決めていません。又、意思表示の難しい方、入浴が嫌いな方には、清潔が保てるよう個々にそった支援を行っています。	入浴支援は、本人の意向を確認して誘導をしている。入浴は思い出話をするなど、楽しい場所となるよう支援している。入浴剤の色を選んでもらい、気持ちよく入浴できる場となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外気浴やレクリエーション活動を行い、夜間気持ちよく眠れるような支援をしています。日中に疲れてしまわないよう個々に対応し休憩も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個々で一覧にし、入居者の方の薬についての理解を深めています。又、薬の変更等があった場合は、連絡ノートと送り時にて伝え、症状変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なこと、好きなこと、できること、やりたいことの把握に努め、日々の役割や気分転換がおこなえるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩、買物は希望時のみではなく積極的に声掛けし出かけています。又、地域の方と連携をとり、計画を立てることで地域の行事、お祭りなどに参加しています。	気分転換・外気浴を兼ねて散歩に出かけている。バスをチャーターして長船のドライブインまで外食に出かけ楽しんでいる。近くのスーパーやドラッグストアへ買い物に出かけている。畑に出て野菜作りを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方の金銭は金銭管理の同意を得てホームでお預かりしていますが、外出の際の買物では、ご本人にお金をお渡しして安心して買物が出来るよう配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望のある時は、プライバシーが守れるよう電話の子機をお渡しして、自室でかけていただいています。またダイヤルが出来ない方にはスタッフが援助しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が快適に過ごせるよう温度、湿度には特に注意しています。大きな日めくりカレンダー、季節を感じれる壁画や花等を飾っています。トイレの扉には大きな文字で「お手洗」と表示し、迷うことなく一人でかけるよう工夫しています。	気の合う入居者同士が意思を通わせて寛げるよう座席に配慮を示している。リビングでのんびり過ごせるよう、季節の飾り物を展示している。また癒しの場となるよう、可愛い動物の写真を掲示し、居心地の良い共有空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、畳コーナーやソファがあり、仲の良い入居者同士がくつろいだり、一人集中して作業が行えるようにしています。玄関にも椅子を配置しており、天気の良い日には、入居者同士でひなたぼっこを楽しんでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が安心できる環境が作れるよう、自宅で使っていた椅子や寝具等、思い出の品を入居時に持ってきていただいています。又、好みの壁画やカレンダーなどご自由に飾っていただいています。	名札を掲示し他室と区別している。ベットは、外の景色を見たいなど本人の希望で位置を決めている。テレビ・仏壇・遺影・家族の写真などを持ち込み、自分らしい部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を掲げ、好みの飾りなどを付け目印にしています。共有部分には手すりが設置され安全に歩行できるようになっています。又、壁への張り紙等は画鋏等の使用を止めて危険のない物を使用しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372400261		
法人名	株式会社 邑久幸ホーム		
事業所名	グループホーム邑久幸ホーム(あけぼの)		
所在地	岡山県瀬戸内市邑久町尾張94-1		
自己評価作成日	令和2年2月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&ijyosyoCd=3372400261-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和2年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「人としての尊厳と人権を守る」、「自由と普通の生活を保障する」、「入居者が主人公を貫く」、この3つの理念をベースに、介護者はお一人おひとりのニーズに対応しながら家庭的な雰囲気の中で穏やかに過ごしていただけるようにお手伝いをさせていただいております。

・水分摂取量・食事摂取量の把握、排泄管理など体調面も看護師と連携を取りながら行なっています。

・暖かい日には地域周辺を散策したり、ドライブや買い物も実施しています。

・認知症の方であってもその人らしく、それぞれの能力に応じた自立した生活を送っていただけるような支援を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念をフロアー、スタッフルームに掲示している。又、「入居者が主人公」の意味を理解し実践できるよう職員会議等を活用し、共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元ボランティアの方との継続的な関わりや新規ボランティアの開拓、地域行事への参加が出来るよう情報収集にも努めている。公民館で行われている催しにも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議へ参加し、事例などを通して認知症の方への理解や支援の方法を話している。地域の方々の認知症の相談、介護保険に関する質問等について随時受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催をしてホームでの取り組み、活動報告、入居状況等を報告し、質問、要望、助言をいただいています。ご意見は次課題とし取り組めるよう検討している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただけるよう連絡を取り、入居者の日常生活の様子を報告できるよう努めている。又、制度についてや地域との連携についての必要な助言もいただけるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を3カ月に1回開催するとともに、その結果について、全職員に周知徹底し、指針も整備している。職員に対しアンケートも実施し、身体拘束等の適正化のための研修が行えるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の方への関わりや声掛けの仕方を職員会議等を利用し、学ぶ機会を持ち、入居者の尊厳、人権、自由が保障される介護が実践できるよう取り組みます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部研修で権利擁護について学び、職員会議等で職員と知識の共有に努めている。又、制度の活用が必要なケースが発生した場合には、支援していきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約に関しては、担当者がご本人、ご家族と面談し、書面と口頭で説明しています。また法改正等があれば、ご家族に書面にて説明をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方には、日常の生活等を月に1回手紙でお知らせし、面会に来られた際はスタッフから積極的に話し掛けを行い相談しやすい雰囲気作りに努めています。又、アンケートを実施し、ご意見をお聞きしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の申し送り、職員会議にて職員の意見を傾聴し反映するようしている。代表者は管理者と管理者会議を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、資格が給料に反映する仕組みになっている。随時、勤務条件等についての相談を受け付けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順次、実務者研修へ参加する機会を設けていると同時に、個々に必要なスキルが身につけられるよう、又、自発性を尊重し学びたい分野の研修に参加できる機会を確保している。研修年間計画の作成。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などに参加することで、同業者や他職種の人と交流する機会があり、その時の意見交換等を日頃の業務の参考にしている。又、瀬戸内市で開催されるケアカフェへの参加も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人にお会いし、現状やお気持ちをお聞きする機会を設けている。入居後も落ち着いて過ごしていただけるように出来る限り今までの生活に近い環境整備を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がご本人に対してどのような思いを抱いておられるのか、どんなことで不安になり困っておられるのかなど、面談にてご要望をお聞きし、サービスに反映できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との話し合いを通じて、今一番必要と思われる支援を優先するよう努めている。職員会議を活用して情報の共有は行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が主人公の理念に基づき、穏やかな日々を過ごしていただくその暮らしのお手伝いをさせていただける関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は、何時でもご自由に訪問していただけるようしています。支援の方向性については、ご本人、ご家族と相談しながら望まれる暮らしのお手伝いをさせていただきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へドライブへ行ったり、以前通われておられたディサービスへ訪問したりし、馴染みの場所、関係の大切さを職員も理解し支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、座る席を配慮している。また、入居者同士の関係が円滑に保たれるようスタッフが調整役となり入居者同士が上手く関わり合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報提供を行ったりし、経過をフォローできるよう努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人の希望や意向を汲みとるようにしている。嫌な事は無理強いせず、代替出来るよう検討していく。また難しい場合には、ご家族と相談してご本人にとって最善の方法や関わりができるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に、ご本人、ご家族、ケアマネージャーなどからお聞きし、フェイスシートにまとめ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、経過記録を活用、現場の職員が感じたことなどを検討した上で共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または状態に変化があった時など必要時にはカンファレンスを開き、課題とケアのあり方についてを話し合っている。ご家族にも面会時等に相談したり、希望をお聞きして介護計画に反映するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別経過記録より日々の様子が把握でき、申し送りがスムーズに行えている。気づきや工夫等の記入が増え質の良い介護の実践につながるよう努力したい。体調管理においては記録から情報の共有が容易に行えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護師による体調管理、訪問歯科医による治療・歯科衛生士による口腔ケア、リハビリなど多職種で一人ひとりのニーズに応じた対応が柔軟に出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の方は、近隣の店舗等に行き物に行かれたり、市政だよりを見られ地域の行事に参加している。情報収集に努め豊かな暮らしを楽しむことができるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医による定期的な往診を受けています。緊急時にも適切な医療が受けられるよう、日頃から連携をとり関係が築けるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の体調等の様子を記録に残し、変化があればすぐに報告や相談を行い指示を受け、適切な対応が行えるようにしている。また、看護師とは24時間オンコール体制で連携を図りながら医療との連携に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関へ必要な情報提供を行っている。面会に行かせていただき状況把握に努め又、経過を追っての情報交換や相談を適時行いながら関係づくりをしている。退院時円滑にホームでの生活に戻れるよう体制整備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を文書で提示しながらホームで出来ることを十分にご説明し、同意を得るようしている。状態の変化に応じてご本人、家族、主治医と話し合い、事業所が対応できる内容についても、その都度説明をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応について適時職員会議の議題に取り入れ対応の確認を行っている。緊急時に適切な対応ができるようマニュアルを作成しユニットに配置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。入居者の方にも参加していただき実践的な避難訓練を行っている。 水害についての避難訓練の実施を近隣施設と合同で行っていけるよう検討中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについての研修を実施するなど、運営理念に基づき「人としての尊厳と人権を守る」ことを念頭に、一人ひとりの個人性に合わせられるような対応ができるようこころざしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりに応じて、また、状況やご本人の状態に応じた働きかけをし、思いの表出、自己決定がしやすい環境の整備、言葉かけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れは決まっているが、お一人おひとりのペースを大切に、どのように過ごしたいかをその都度お聞きしたり、思いを汲み取りながら支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に服を選んだり、セッティングし整容しやすい環境を整えたりしながらその人らしさを大切に支援している 定期的に理美容の業者の方に訪問してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話や食事摂取状況などから嗜好を把握している。調理、盛り付けを共に行い食事がより楽しみなものになるよう心掛けながら支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を個々に把握できるよう記録に残している。状態に応じた食形態へ柔軟に対応したり、無理なく水分摂取できるよう工夫しながら美味しく栄養が摂取できたり、水分量が確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守り、セッティング、介助等個々に応じた口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の方の排泄リズムを把握しながら本人の状況・状態に応じた排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬だけでなく、飲食物を個々に応じて検討し予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴担当者と相談しご希望の時間に入浴できるようにしている。体調が整わず入浴できなかった場合には、清潔が保てるよう個々にそった支援を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息などご自由に自室へ戻り、休んでいただけるよう環境を常時整えています。夜間パジャマへの更衣支援。定期、必要時シーツ交換を気持ちよくお休みいただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報をファイルし、薬箱の横に保存している。変更があった時などは連絡ノートにてスタッフに知らせ、情報を更新して共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの得意なこと、好きなこと出来ること、やりたいこと等を把握し、調理、洗濯、畑仕事などそれぞれに役割りと楽しみを持ちながら生活していただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩、買い物はご希望に沿って日常的に行えている。また意思表示しにくい方へも体調や表情を見ながら外出にお誘いしています。行事に外出を取り入れ、公園や公民館に行くことが出来ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方の金銭は金銭管理の同意を得てホームでお預かりしているが、外出の際の買い物ではご本人にお金をお渡しして安心して買い物ができるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい希望のある方には、子機をお渡しして、ゆっくりお話していただいている。ダイヤル出来ない方にはスタッフが援助しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が快適に過ごせるよう温度、室温には特に注意している。又、入居者の方の歩行の妨げになる物や危険な物は共有の空間には置かないようしています。花や掲示物を飾り、ホールにいても季節を感じることもできる空間を提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳コーナーで仲の良い入居者同士がくつろげるスペースを設けている。必要に応じて環境設定を検討し一人ひとりにとって居心地の良い居場所作りが出来るよう配慮している。 玄関にも椅子を設けており、天気の良い日には外気浴を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が安心できる環境が作れるよう、自宅で使っていた椅子や寝具等、思い出の品を入居時に持って来ていただいている。又、好みの絵やカレンダーなど自由に掲示していただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を掲げ、トイレはわかりやすいよう入口に「トイレ」と表示している。共有部分には手すりが設置され歩行の不安定な方にも安全に移動できるようになっている。安全で自尊心を保てる環境作りを努めている。		